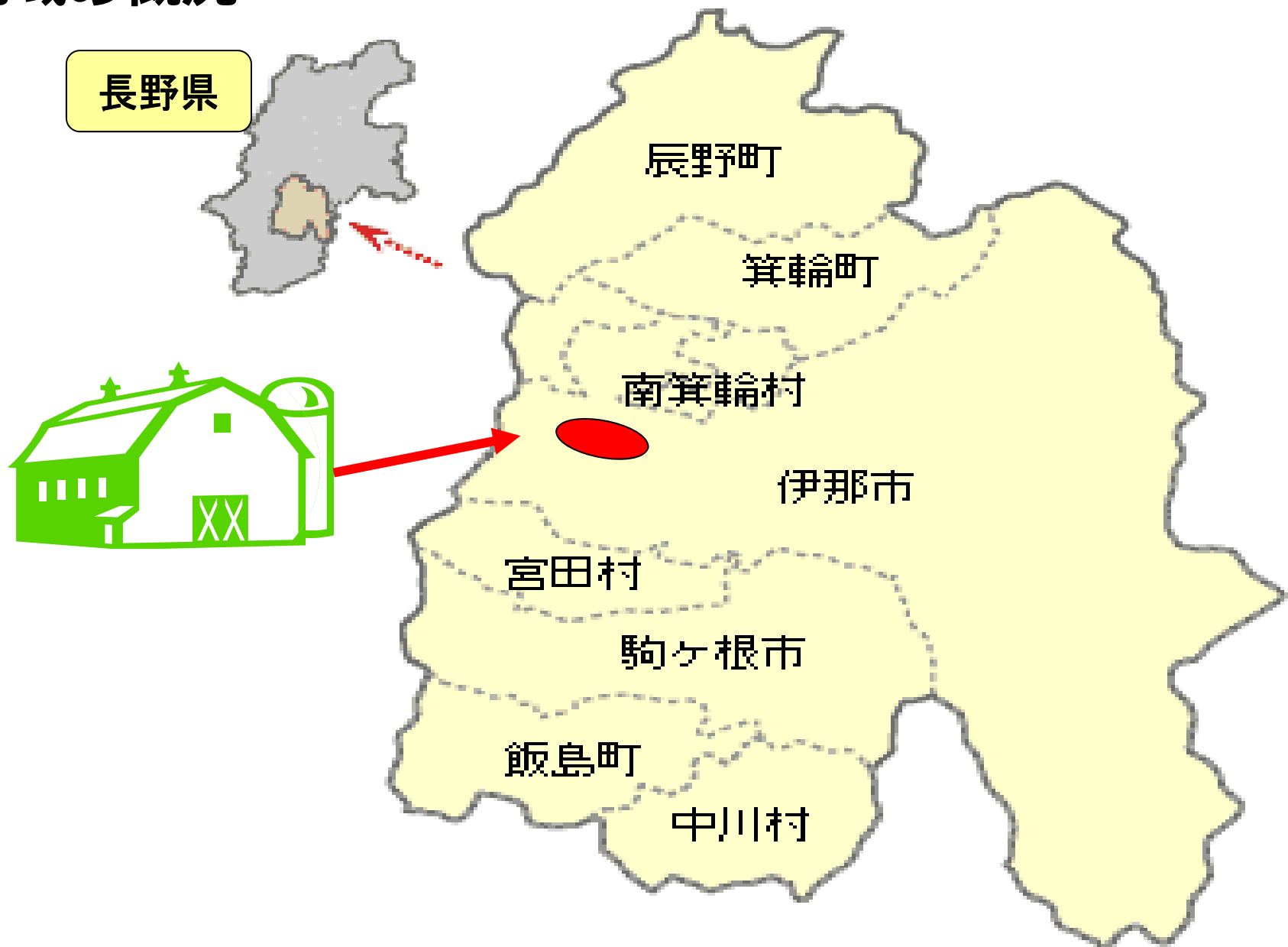




**親から子へ
ゆとりと資源循環型の酪農経営をめざして**

**伊那酪農業協同組合
伊那市ますみヶ丘 網野一雄**

地域の概況



経営の推移

年次	内容
昭和28年	父が伊那市ますみヶ丘に入植
29年	本人誕生
33年	乳牛1頭導入。酪農開始
45年	20頭規模の対尻式牛舎新築
49年	本人、県農業大学校畜産実科卒業と同時に就農
53年	自給飼料畑40a購入
55年	36頭規模の対頭式牛舎新築
58年	本人結婚
61年	父から経営を移譲
63年	自給飼料畑45a購入。仲間6人で「フォルト機械利用組合」設立
平成11年	自給飼料畑15a購入
18年	自給飼料畑30a購入。次男が経営を手伝う
21年	次男が後継者として本格的に就農
	現在に至る
	(経産牛頭数35頭、飼料畑面積:所有地200a、借地1,100a)

私の家族

飼養頭数

区分	頭数
経産牛	34.9
育成牛	24.0
合計	58.9

労働力の構成

続柄	年齢	従事日数	作業分担	経験年数
本人	55	340	全般	35
妻	50	340	全般	26
次男	22	200	全般	3
父	84	300	哺育・育成	51
母	80	—	—	—

建物及び施設・機械

種類	取得年	取得金額 (千円)	備考
搾乳牛舎	昭和55	14,000	
地下式コンクリートサイロ	58	5,000	
サイロ	平成11	1,257	
堆肥舎	17	10,000	1/2リース
パイプラインミルカー	昭和55	1,240	
トラクター	60	3,000	
トラクター	平成 8	8,518	
ロールベラー	15	3,400	共同購入
ジェットシーダー	17	571	〃
トラクター	17	476	〃
堆肥散布機	19	2,400	

搾乳牛舎



サイロ



堆肥舎

漏汁排水用U字溝を設置し、
処理タンクへ流入



漏汁溜め(飼料タンク再利用)



堆肥処理作業



バークリーナーから堆肥運搬車両へ

共同購入機械



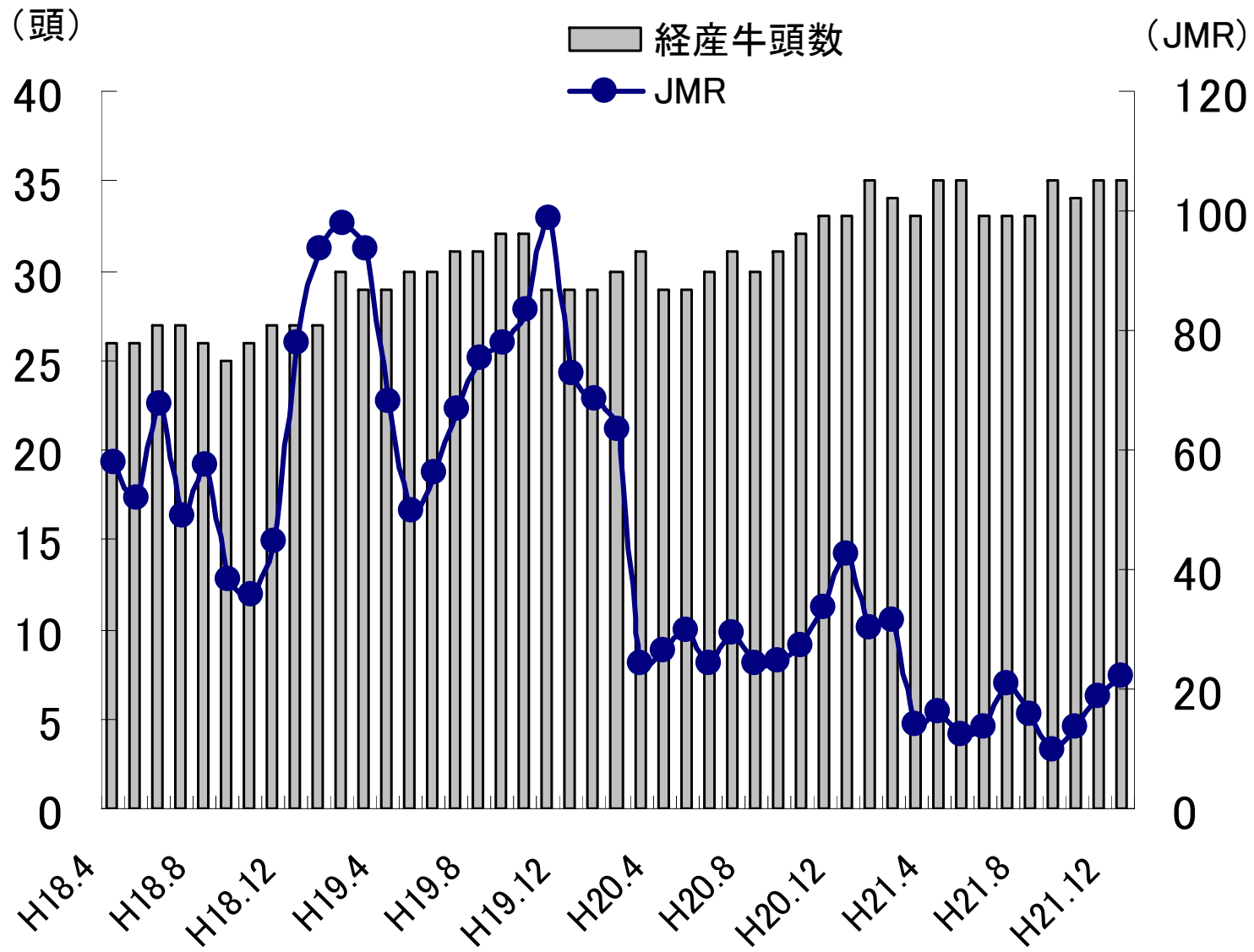
自給飼料の生産と利用状況

飼料名	作付延面積 (借地延面積)	月												収量(t) (10a当)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
デントコーン	600a (450a)						△	△			□				420 (7.0)
イタリアン(裏作)	300a (150a)						□						△		60 (2.0)
オーチャード主体混播	700a (650a)						□			□			□		420 (6.0)
合計	1,600a (1,250a)	△ 播種 □ 収穫 ← → 利用期間												900	

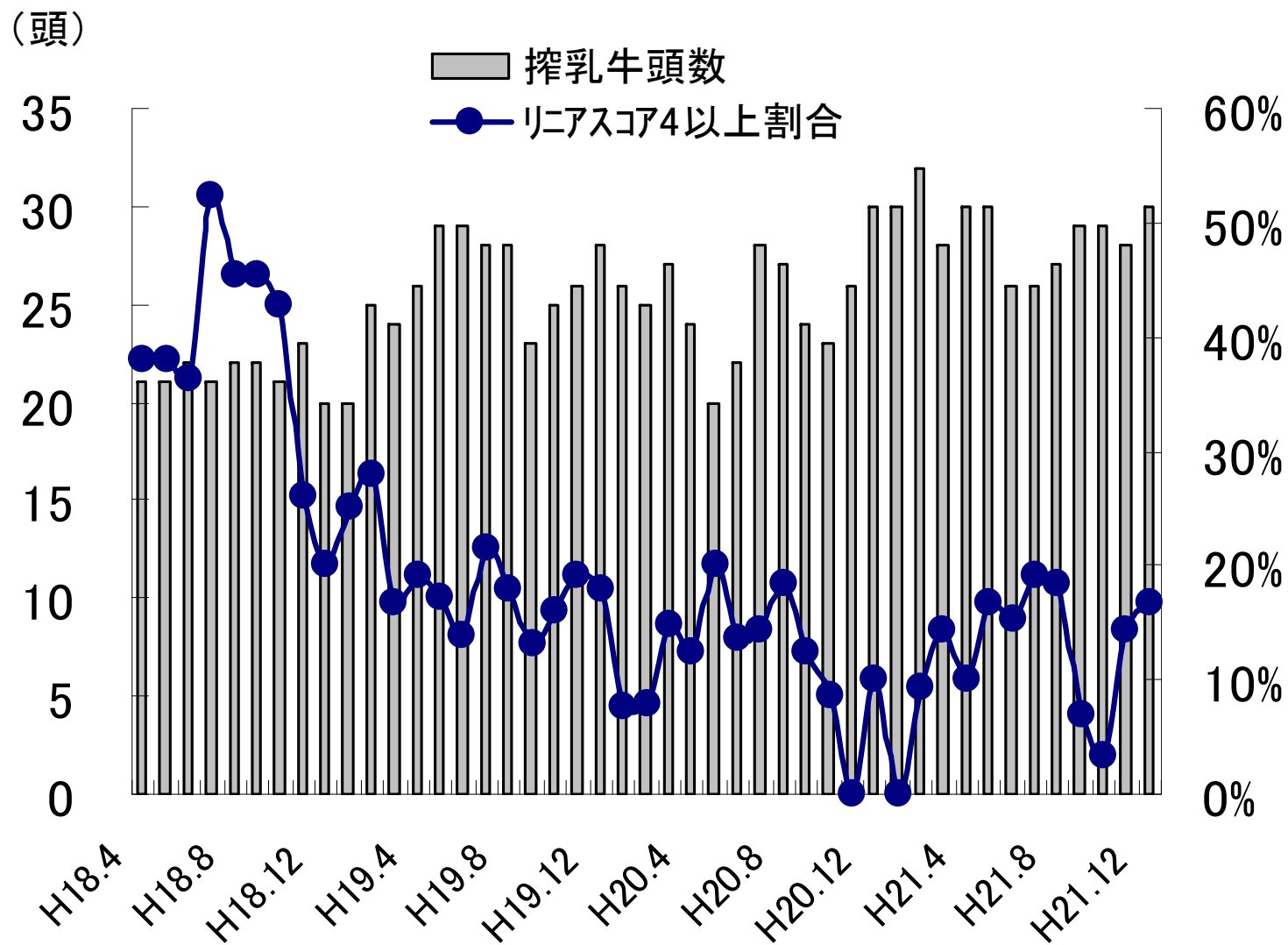


「フォルト機械利用組合」共同作業風景





JMR(受胎の遅れの指標)の推移
[牛群検定成績]



リニアスコア4以上(慢性乳房炎の疑い)の検出割合
 [牛群検定成績]

経営の成果①

技術成績

項 目	H21	H20 先進事例
経産牛頭数 (頭)	34.9	48
経産牛当り自給飼料面積 (a)	46	32
経産牛当り乳量 (kg)	9,315	8,292
種付回数 (回)	2.0	2.2
分娩間隔 (ヶ月)	12.5	14.5
体細胞数 (万/ml)	10.1	—
細菌数 (万/ml)	3.4	—

注)H20先進事例:H20年度中央畜産会全国集計結果

経営の成果②

財務成績

項 目	H21	H20 先進事例
牛乳100kg当り収入 (円)	10,572	10,465
同上生産原価 (円)	8,508	9,566
経産牛当り所得額 (千円)	286	117
乳 飼 比 (%)	34.3	51.3
所 得 率 (%)	29.1	13.3
経産牛当り借入金 (千円)	729	367

注)H20先進事例：H20年度中央畜産会全国集計結果



今後の経営展開について

①施設の充実

②環境保全施設の整備

③ゆとりある酪農経営の実践